

アジア：成長を続けるコンビニ市場

イーストスプリング・アジア・ナウ Vol.67



存在感を増すローカルのコンビニエンスストア

経済成長とともに消費者の購買力が高まり、コンビニ需要は拡大

- 中国ではコンビニの店舗数はすでに10万店舗を超えており、アジア新興国では今後、コンビニ市場の高い成長率が予想されています。英国系調査会社IGDによると、2017年から2021年までのアジアのコンビニ市場の年平均成長率は、第一位のベトナムで37.4%、第二位のフィリピンが24.2%、第三位のインドネシアが15.8%と、高い成長率が予想されています。

他国へ進出するインドネシアのコンビニ

- アジアのコンビニ市場全体では、ファミリーマートやセブンイレブン等の日本のコンビニ大手が優勢となっていますが、ベトナムでは、まだ市場は小さいものの地場のコンビニである「ビーンマート」が圧倒的なシェアを持っています。
- インドネシアにおいても、「インドマレット」と「アルファマート」という地場コンビニが2強となっており、日系コンビニの苦戦が続いています。同国では、既存の小売店を保護するため、コンビニは「飲食店」扱いとなっています。そのため、過去には、市場に適合出来ず、セブンイレブンやミニストップはインドネシアから完全撤退しています。
- そうした中、インドネシアで第2位の「アルファマート」が海外進出を展開。同じく急成長しているフィリピンの同市場において、シェアを拡大しています。フィリピンでは、台湾系資本のフィリピン・セブン社のセブンイレブンが1強で、日系のミニストップがそれを追う図式でしたが、「アルファマート」はフィリピンのモール運営最大手のシューマート（SM）グループと提携して2014年にフィリピンに進出すると、SMグループが運営するモール館内に店舗し集客を図る等の戦略で顧客を増やし、ミニストップに迫る勢いで急成長しています。
- 競争が激化しているコンビニ市場ですが、アジアでは、アルコール販売規制等の法規制や食文化等が各国で異なるため、その国に適した成長戦略を取ることが重要です。人件費などのコストが高騰し、モバイル決済が普及した中国では無人のコンビニが注目されています。

＜アジアのコンビニ市場年平均成長率予想＞
2017-2021年

順位	国・地域	成長率
1	ベトナム	37.4%
2	フィリピン	24.2%
3	インドネシア	15.8%
4	マレーシア	10.5%
5	インド	10.3%

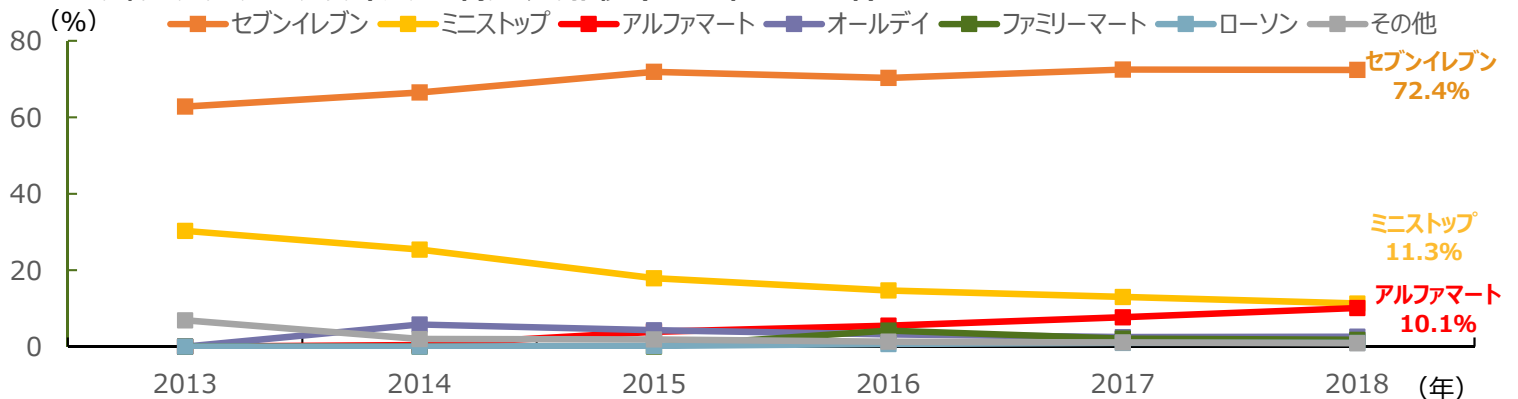
出所：IGDのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。



ジャカルタ市内のアルファマート。店内のATMでスマートフォンの電子マネーアプリにチャージ出来る等、市民の生活に密着している。国内に1万店舗以上を展開。

（写真は弊社社員撮影。）

フィリピンのコンビニブランド別売上高シェアの推移（2013年～2018年）



出所：Euromonitor Internationalのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。※また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。※また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシアランス社とは関係がありません。